

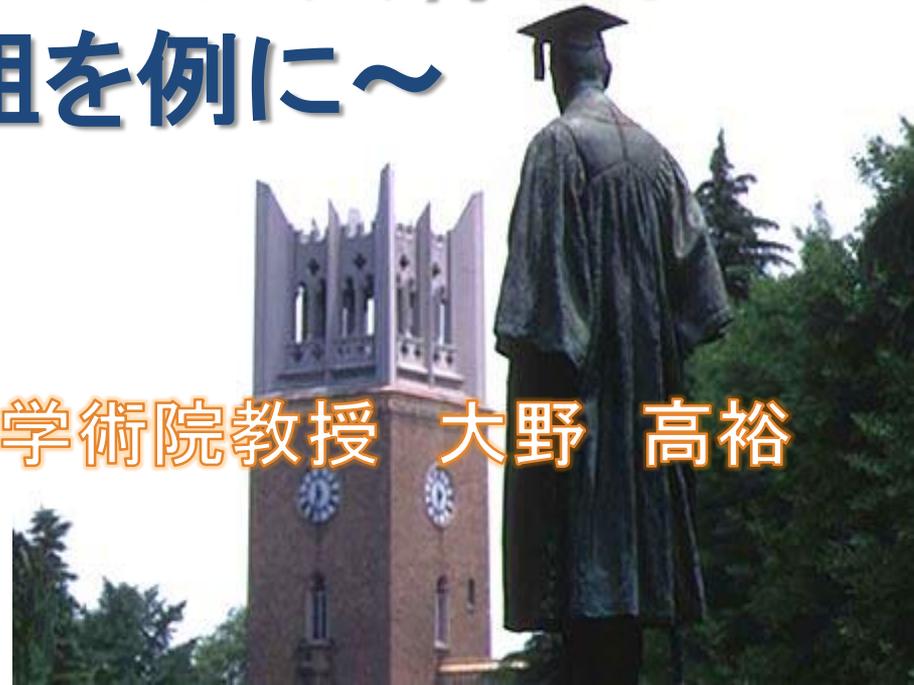


WASEDA UNIVERSITY

**文部科学省グローバル人材育成推進事業
第一回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ**

大学が育てるグローバル人材とは ～本学の取組を例に～

早稲田大学教務部長・理工学術院教授 大野 高裕





グローバル人材の定義

✓「グローバル人材」の概念

要素Ⅰ	語学力・コミュニケーション能力
要素Ⅱ	主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
要素Ⅲ	異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

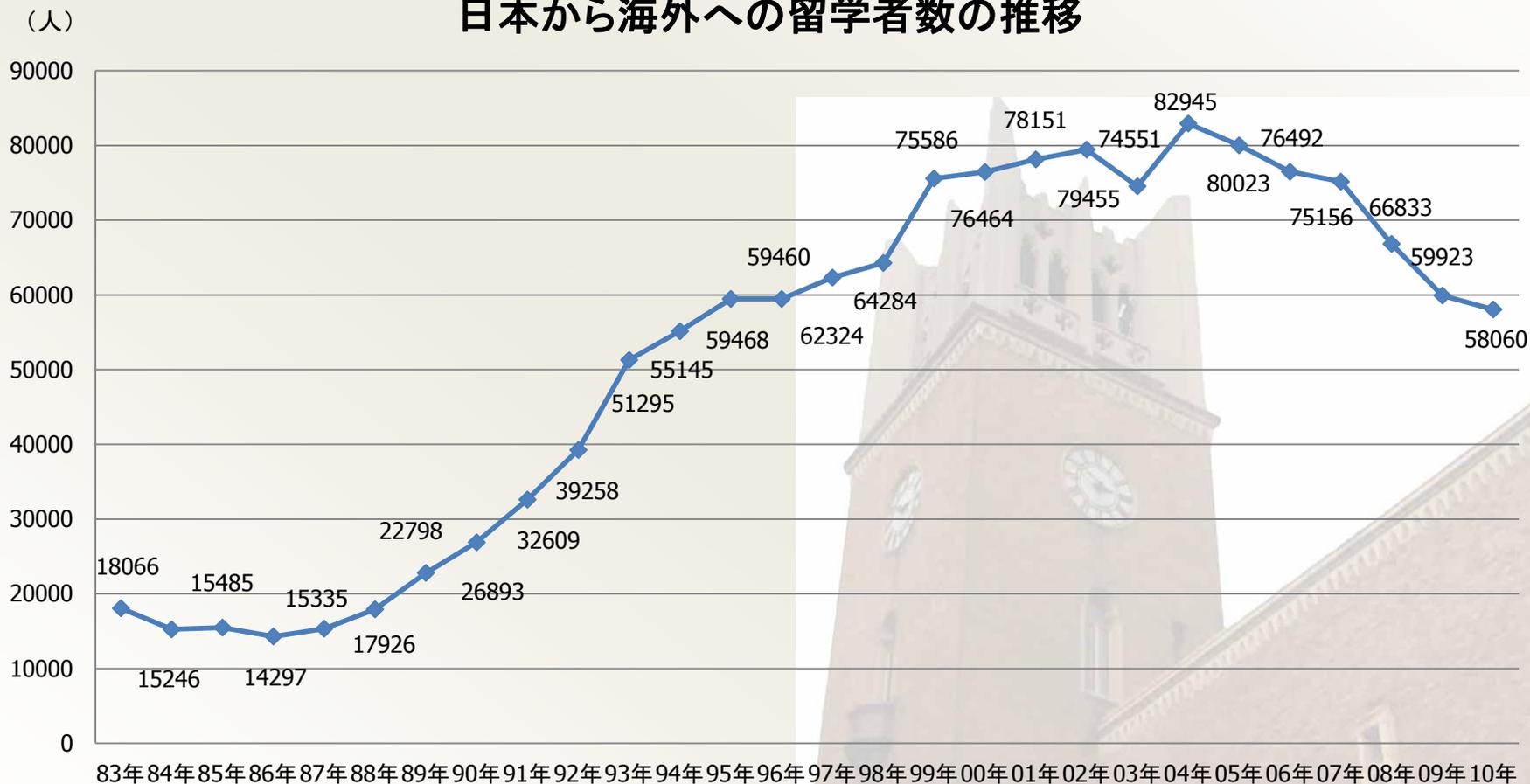
✓このほか、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等。

✓グローバル人材の能力水準の目安を(初歩から上級まで)段階別を示すと、

- ① 海外旅行会話レベル
- ② 日常生活会話レベル
- ③ 業務上の文書・会話レベル
- ④ 二者間折衝・交渉レベル
- ⑤ 多数者間折衝・交渉レベル



日本から海外への留学者数の推移

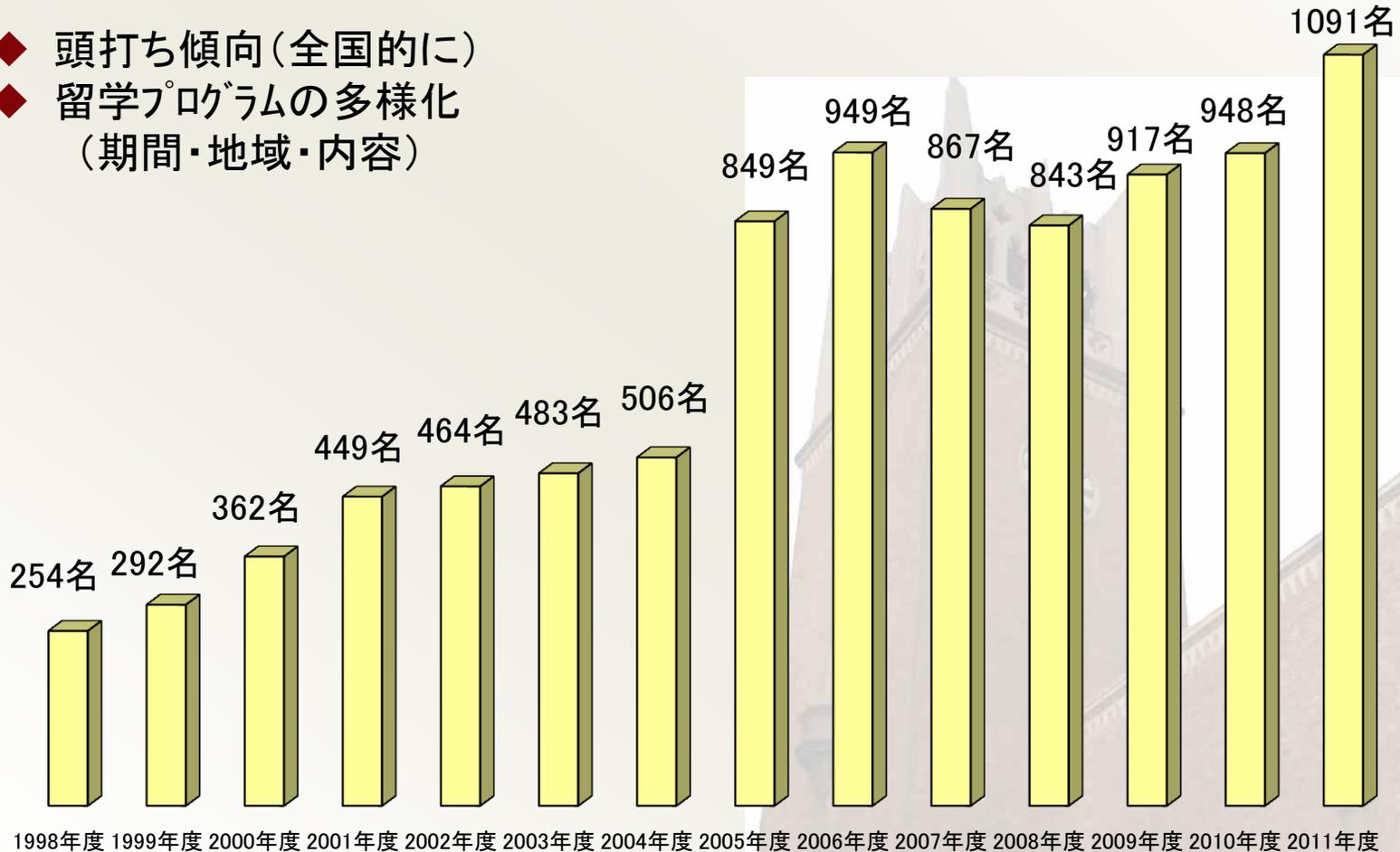


(出展)平成25年2月 文部科学省集計『日本人の海外留学者数の推移』より



本学の留学派遣の推移

- ◆ 頭打ち傾向(全国的に)
- ◆ 留学プログラムの多様化
(期間・地域・内容)

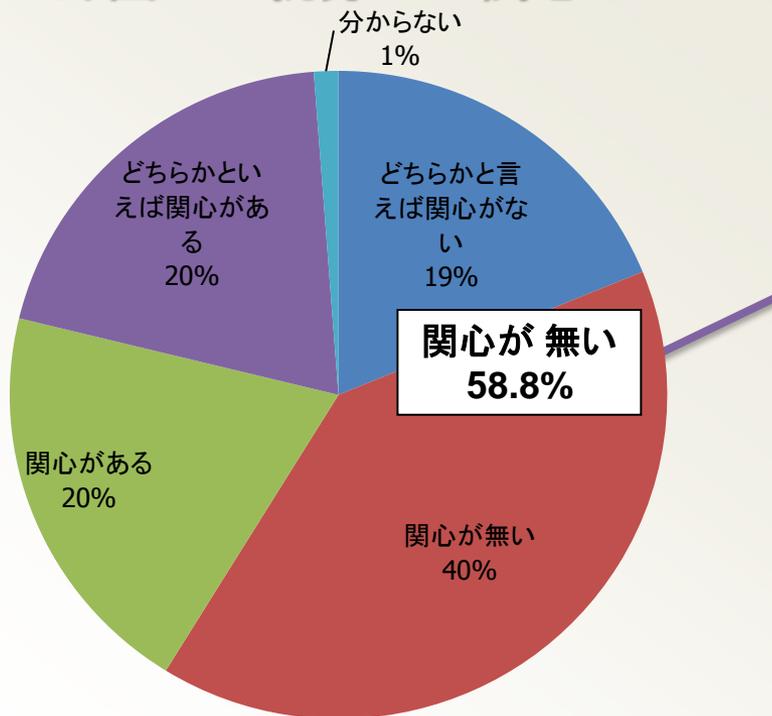




若者の「内向き志向」という課題①

➤ 平成22年7月に内閣府が実施した「労働者の国際移動に関する世論調査」によれば、外国で働くことに関心がないとした20代の若者は 58.8% を占める。

外国での就労への関心



関心が無い理由

- ・ 外国で生活することに不安を感じる 58.8%
- ・ 語学力に自信がない 55.7%
- ・ 家族や友人と離れたくない 43.3%
- ・ 外国で働くために必要な情報を知らない 33.0%

(関心がないとした者を100%とした場合・複数回答上位4項目)

(出展)内閣府が実施した「労働者の国際移動に関する世論調査」より



若者の「内向き志向」という課題②

- 一方でグローバル人材の需要に関する調査では、この5年以内に日本の企業は現在の2倍以上のグローバル人材を必要とすることになる。

グローバル人材需要量



(出展みずほ情報総研「企業における『グローバル人材』需要に係るアンケート調査」より)

➤5年以内に単純計算で現在の2倍以上のグローバル人材が社会で必要となる。

➤外国人人材だけではその需要を満たすことは出来ない。

➤現在の社会人が一朝一夕にグローバル人材になることは難しい。

**グローバル人材の育成
若者の「内向き志向」という問題の解決が急務**

Waseda Vision 150



<教育・研究ビジョン>

1. 世界に貢献する高い志を持った学生
【基軸1】 人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーの育成
2. 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究
【基軸2】 未来をイノベートする独創的研究の推進
3. グローバルリーダーとして社会を支える卒業生
【基軸3】 校友・地域との生涯にわたる連携の強化

<大学経営ビジョン>

4. アジアの大学のモデルとなる進化する大学
【基軸4】 進化する大学の仕組みの創設

核心戦略

【入試戦略】
◆入試制度の抜本的改革

【教学戦略】
◆グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築
◆教育と学修内容の公開
◆対話型、問題発見・解決型教育への移行
◆大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進
◆早稲田らしさと誇りの醸成をめざして
-早稲田文化の推進

【展開戦略】
◆独創的研究の推進と国際発信力の強化
◆世界の WASEDA としての国際展開
◆新たな教育・研究分野への挑戦

【経営戦略】
◆教職員の役割と評価の明確化
◆財務体質の強化
◆進化する大学の仕組みの創設
◆早稲田を核とする新たなコミュニティの形成

核心戦略を実現するための76のプロジェクト

◆学生関係
-ディプロマ・ポリシー
-カリキュラム・ポリシー
-アドミッション・ポリシー
-学生支援ポリシー

◆教員関係
-リサーチ・ポリシー
-ファカルティ・ディベロップメント (FD) ・ポリシー
-教員採用ポリシー

◆大学運営関係
-職員採用ポリシー
-スタッフ・ディベロップメント (SD) ポリシー
-情報公開・発信ポリシー
-大学運営ポリシー



本学の大学戦略と結びついたグローバル人材の育成

【Vision1】

世界に貢献する高い志を持った学生

教育・研究ビジョン

<基軸1> 人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーの育成



【Vision2】

世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究

教育・研究ビジョン

<基軸2> 未来をイノベートする独創的研究の推進



大学戦略と密接に結びついた 人材育成

【Vision3】

グローバルリーダーとして社会を支える卒業生

教育・研究ビジョン

<基軸3> 校友・地域との生涯にわたる連携の強化

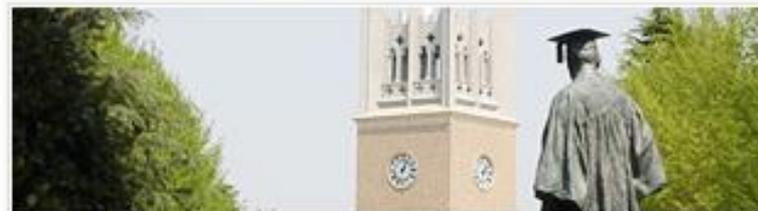


【Vision4】

アジアの大学のモデルとなる進化する大学

大学経営ビジョン

<基軸4> 進化する大学の仕組みの創設





大学の教育目的及び教育研究実績

目的

1913年

大学教旨「一身一家、一国の為のみならず、進んで世界に貢献する」

2008年

Waseda Next 125「地球の至るところを学びの場とし地球共同体のリーダーを育成する」

2012年

Waseda Vision 150 「人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーを育成する」

早稲田大学の育成する人材像：「世界に貢献する人」

実績

2012年 日本最大数の外国人学生4,331名が在籍

2011年 日本の大学では最大規模の学生数1,728名を海外に派遣

2011年 Waseda Vision 150にて留学生受入8,000名、全員留学のアクションプランを策定着手

2007年 Waseda Next 125策定中に留学生受入8,000名、全員留学の構想発表

2005年 DDプログラム開始(北京大学、復旦大学、国立台湾大学、NUS、コロンビア大学)

2004年 国際教養学部を設置(英語による学位取得課程:現在6/13学部実施)

1998年 アジア太平洋研究科を設置(英語による学位取得課程:現在9/17研究科実施)

1991年 初の海外拠点・ヨーロッパセンター(ドイツ・ボン)設置 (現在、海外拠点10か所)

1963年 国際部を立ち上げ、年間100人以上の米国学生受入、海外派遣留学を開始

1905年 清国留学生部を設置し組織的に留学生受入れ開始



本学が育成を目指すグローバル人材像及び学生が習得すべき具体的能力

「一身一家、一国の為のみならず、進んで世界に貢献する」人材

「教育は、人格の養成を根義…唯だ専門智識を吸収するのみ…人間は利己的となる。犠牲的精神は段々衰へてくる…此弊を避けて…早稲田大学の教旨の最も根本を為す。」 (大隈重信1913年)

グローバルな視点を持って、“Global・Regional・National・Local”のどの場においても課題解決に貢献する人材

グローバルな課題

環境、資源、エネルギー
パンデミック…

リージョナルな課題

領土問題、TPP
EU・ASEAN問題…

ナショナルな課題

財政問題、災害対策
少子高齢化、社会保障…

ローカルな課題

まちづくり、ゴミ問題
過疎化…

⇒海外で活躍する人材を育成するのみではなく、日本国内の様々な地域でグローバルな視点を持って活躍できる人材育成にも力を注ぐ

学生が身につけるべきと考える具体的な資質と能力

【叡智】

- ・広い国際的教養
- ・異文化理解力
- ・高い専門性と分析力・考察力
- ・言語・コミュニケーション力
- ・自律的・批判的思考能力

【志】

- ・世界の平和と豊かさへの希求
- ・勇気・チャレンジ精神
- ・奉仕と感謝の心
- ・高い道徳心と倫理観
- ・アイデンティティ

【実行力】

- ・課題発見能力
- ・本質を見抜く洞察力
- ・人と協力し周囲をまとめる力
- ・物事を最後までやり遂げる力
- ・力強さ・タフさ

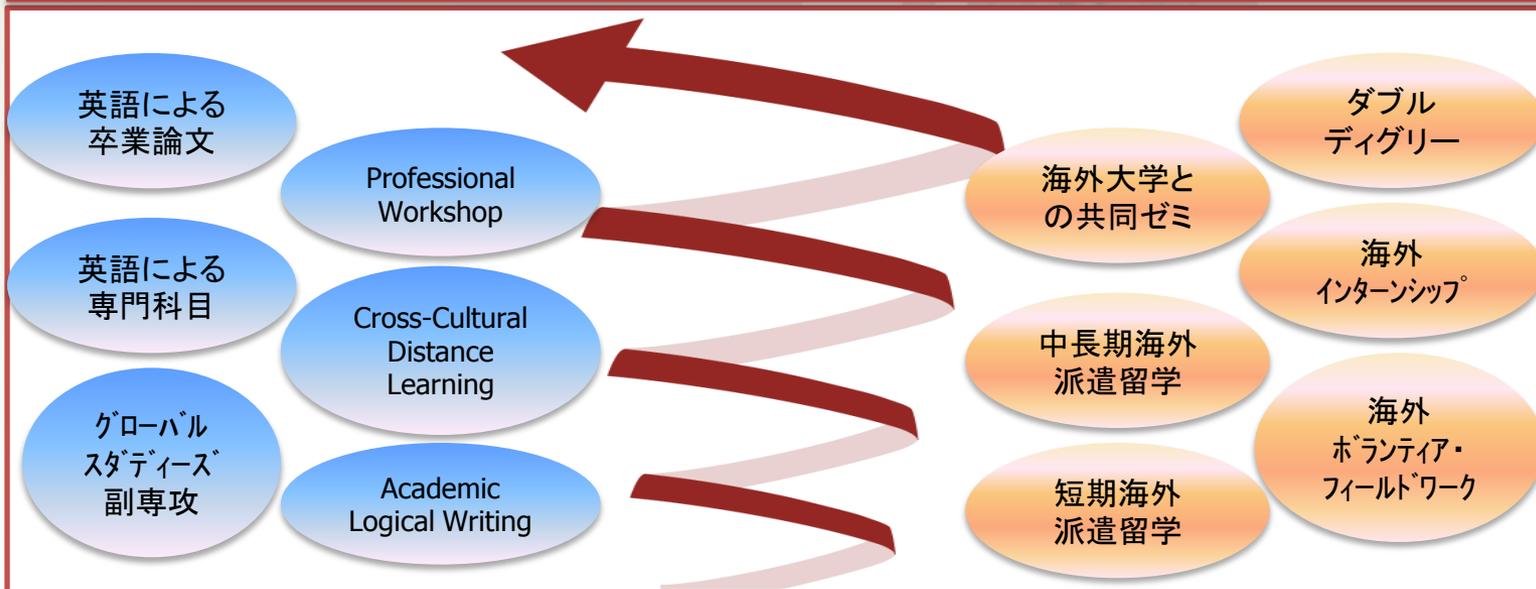


具体的な教育内容及び方法①

グローバルな視点を持って、“Global・Regional・National・Local”のどの場においても課題解決に貢献する人材

【叡智】 + 【志】 + 【実行力】

知識と実践の学びのスパイラル



グローバルキャンパスの学習・生活環境

受入留学生8,000名 日本人・留学生混住寮 留学生との協働ボランティア
 グローバル・アカデミック・フォーラム ランゲージ&カルチャー・エクステンジ



本学が進める人材教育構想の概要

グローバルキャンパスの学習環境

入試制度改革

留学経験、外国語能力テストを伴う入試制度の導入
一般入試におけるリスニング試験の導入

全13学部における教育

全学共通教育

全学共通教育センター

外国語教育、留学準備教育

- ・全学部によるプレースメントテスト、定期的な語学力測定テスト、習熟度別外国語クラス編成の実施
- ・英語以外に23言語の外国語教育の提供
- ・少人数チュートリアル・イングリッシュの提供
- ・アカデミック・ライティング・クラスの提供
- ・DDプログラム準備コースの設置
- ・オナーズ・プログラムの設置
- ・カレッジスキル及びTOEFLスコアを伸ばす留学準備講座の提供(オンライン含む)

英語・その他外国語による教養・専門教育

- ・留学後のフォローアップ教育
- ・少人数セミナー形式の授業の拡充
- ・グローバル・スタディーズ副専攻の設置
- ・国際関連の副専攻コースの提供
- ・海外大学院進学準備コースの設置(GMAT、GRE等)
- ・国際コンソーシアムへの参加及び研究発表
- ・海外協定校との共同セミナーの提供(遠隔システム利用含む)
- ・外国語での卒業論文作成の指導

グローバル
学習ポートフォリオ

知識と実践の学びの スパイラルの実現

海外派遣留学を 始めとする 国際教育 短期留学プログラム 長期留学プログラム

短期留学プログラム

- ・クォーター制を利用した18ヶ国、8言語、51大学による春・夏合計77プログラム
- ・演習ゼミにおける海外協定校との共同教育プログラム新設(13学部、50プログラム)
- ・インターンシップ、フィールドワーク等、体験型プログラムの拡充
- ・発展途上国等海外ボランティア・プログラム

長期留学プログラム

- ・77ヶ国、23言語、430大学による合計500の長期留学プログラム(1年間)を設置
- ・各学部にビルトインした留学プログラムを設置(2016年13学部、26プログラム)
- ・欧州・アジアなど非英語圏における英語留学プログラムの強化(2016年110プログラム)
- ・米国GLCA/ACM、高麗大学校、香港中文大学とのDDプログラムを開発中(2016年20プログラム)

全員留学

2012年度 1,848名
長期留学者数: 798名
短期留学者数: 1,050名

2016年度 4,000名
長期留学者数: 1,500名
短期留学者数: 2,500名

2022年度 8,000名
長期留学者数: 2,000名
短期留学者数: 6,000名

【叡智】

【志】

【実行力】

グローバルな視点を持って
“Global-Regional-National-Local”の
どの場においても課題解決に貢献する人材



①育成する人材の持つべき資質と能力、これを実現するための教育カリキュラムの内容・方法

具体的な教育内容及びその方法②

1. 全員海外派遣留学のための留学プログラムの拡充

短期

- クォーター制を利用した18ヶ国、8言語、51大学による春・夏合計77プログラムを設置
- 演習ゼミにおける海外協定校との共同教育プログラム新設(2016年 13学部、50プログラム)
- インターンシップ、フィールドワーク、ボランティア等、**体験型プログラムの拡充**

中・長期

- 7ヶ国、3言語、8大学による合計11プログラムの1セメスターの留学プログラムを設置
- 学部のカリキュラムにビルトインした留学プログラムを設置(2016年 13学部、26プログラム)
- 欧州・アジアなど**非英語圏における英語留学プログラム**の強化(2016年 110プログラム)
- 米国GLCA/ACM、高麗大学校、香港中文大学とのDDプログラムを開発中(2016年 20プログラム)

2. 様々な学生のニーズに対応した4年間の体系的国際教育

	1年		2年		3年		4年	
海外中心モデル	チュートリアル イングリッシュ	短期留学	留学準備講座	長期留学	長期留学	英語による 専門科目受講	アカデミック ライティング	英語による 論文作成
国内中心モデル	チュートリアル イングリッシュ	英語の異文化 理解教育	Cross-Cultural Distance Learning	中期留学	海外 ボランティア	チュートリアル イングリッシュ	英語による 専門科目受講	海外 インターンシップ

支援内容

留学目的の明確化 留学志望先の絞り込み 語学力及び資金準備アドバイス 留学中の危機管理 留学中の学習アドバイス
 単位認定アドバイス キャリアアドバイス 学習振り返り支援

グローバル学習ポートフォリオの作成



多様な留学プログラム①

長期プログラム

- ・ 1年間の留学
- ・ 幅広い留学先 (国・地域)

中期プログラム

- ・ 半年間の留学
- ・ 語学習得が中心

短期プログラム

- ・ 1～4週間の留学
- ・ 春・夏休み中の年2回実施





多様な留学プログラム②

◆ 全学共通副専攻「グローバル・リーダーシップ学」

アジア諸国と西洋諸国に関する歴史・文化・社会・政治・経済の分野で問題意識を深め、リーダーシップの素養を身につける英語（一部日本語併用）の講義を提供。双方向型講義によって、ディスカッションやプレゼンなどの機会も設けています。また、短期プログラム（海外研修科目）も選択科目に含まれており、休みを活用して、語学力向上や異文化理解を深めることもできます。



◆ グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP)

今後の国際社会で強いリーダーシップを発揮する人材の育成を目指し設置した学部4年間の特別留学プログラム。

今年10月に学内選考を行い、新入生を中心とした全学部生より10-15名の優秀な学生を選抜。米国パートナー大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ペンシルバニア大学、ワシントン大学（シアトル））への1年間の派遣留学や同大学からの留学生と共に世界的規模の課題に取り組む『日米合同ゼミ』といった特別カリキュラムが用意されています。





①育成する人材の持つべき資質と能力、これを実現するための教育カリキュラムの内容・方法

グローバル教育と学習成果の確認

- ・ゼミ単位の協定校との学生交流
- ・短期・中期・長期留学プログラム
- ・海外大学院進学

【叡智】

- ・広い国際的教養
- ・異文化理解力
- ・高い専門性と分析力・考察力
- ・言語・コミュニケーション力
- ・自律的・批判的思考能力

ダブルディグリープログラム

多言語による教養教育

国際コンソーシアムへの参加

- ・海外ボランティア
- ・海外インターンシップ
- ・Cross-Cultural Distance Learning

- ・オナーズプログラム
- ・海外フィールドワーク
- ・日本人・留学生混住寮

【志】

- ・世界の平和と豊かさへの希求
- ・勇気・チャレンジ精神
- ・奉仕と感謝の心
- ・高い道徳心と倫理観
- ・アイデンティティ

【実行力】

- ・課題発見能力
- ・本質を見抜く洞察力
- ・人と協力し周囲をまとめる力
- ・物事を最後までやり遂げる力
- ・力強さ・タフさ

組織効果測定(定量)

【卒業時の目標値 (現在)⇒(5年後)】

- 英語カスタンダード (TOEFL)
(約1,500人14%)⇒(約3,800人42%)
- 留学者数
(約1,800人17%)⇒(約4,000人45%)
- 海外大学院進学
(約50人 0.5%)⇒(約200人 2%)
- 海外での就職
(約100人 1%)⇒(約200人 2%)
- 英語による卒業論文
(約1,000人10%)⇒(約2,000人20%)
- 海外ボランティア
(約200人 2%)⇒(約500人 5%)
- 海外インターンシップ
(約50人 0.5%)⇒(約200人 2%)

個人効果測定(定性)

【グローバル学習ポートフォリオ】

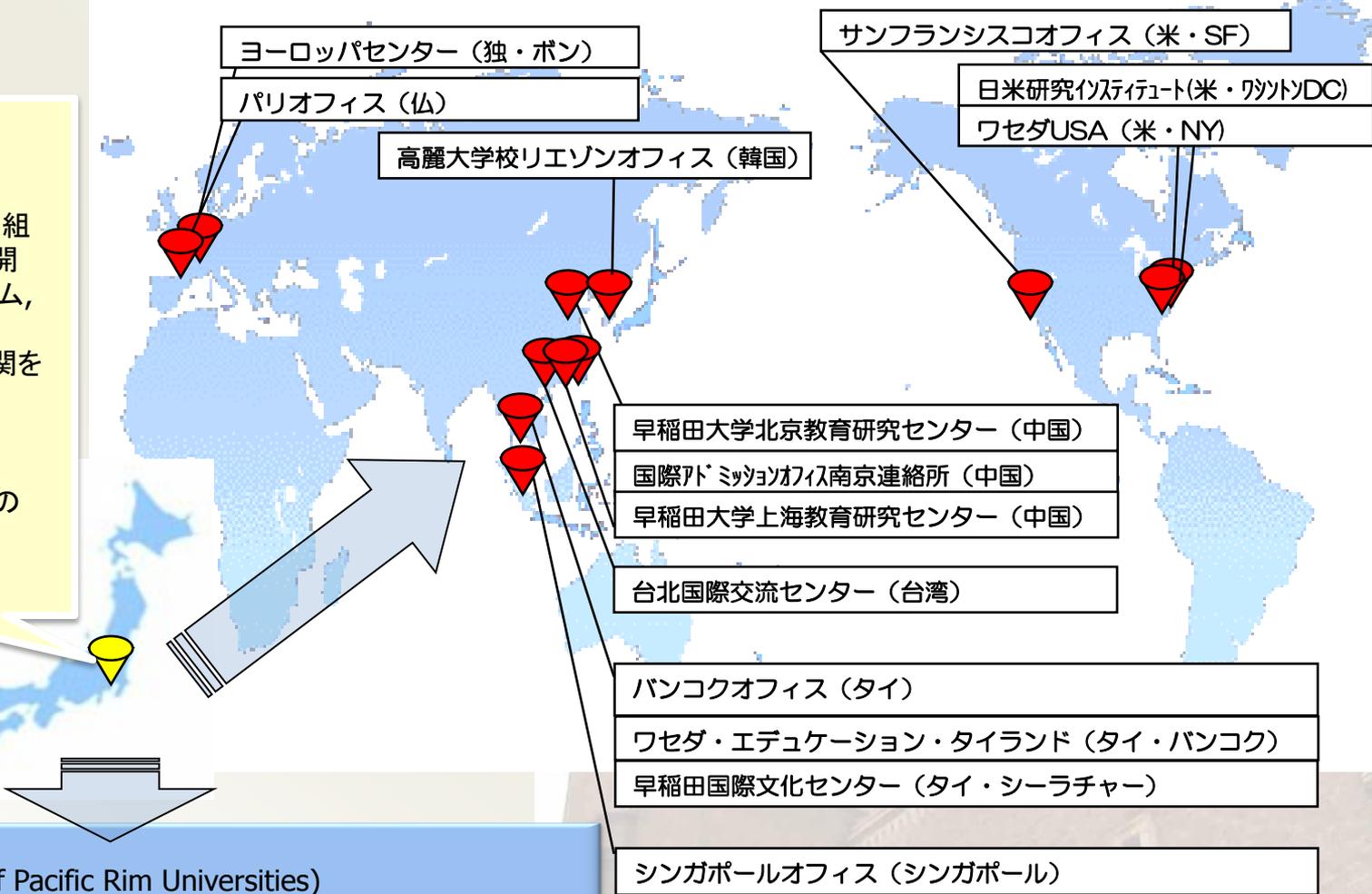
- 留学前の学習計画
 - 留学報告の定期的確認
 - 帰国後学習のフォローアップ
- ⇒個人ポートフォリオを通じた学生・教員による学習成果の確認



グローバル化を推進・牽引を可能にするグローバルネットワーク

【海外への情報発信】

- ▶ 多言語・多方式による取組情報の積極的な外部公開 (公式HP, 教養シンポジウム, 海外オフィス)
- ▶ コンソーシアム・参加機関を通じた情報発信 (APAIE, U21, NAFSA, EAIE, etc)
- ▶ YouTube等を利用したオンラインによる海外への授業公開 (多言語化)



【海外コンソーシアム】

- ▶ APRU (Association of Pacific Rim Universities)
- ▶ U21 (Universitas 21)
- ▶ IAU (International Association of Universities)
- ▶ Venice International University
- ▶ APAIE (Asia-Pacific Association for International Education)



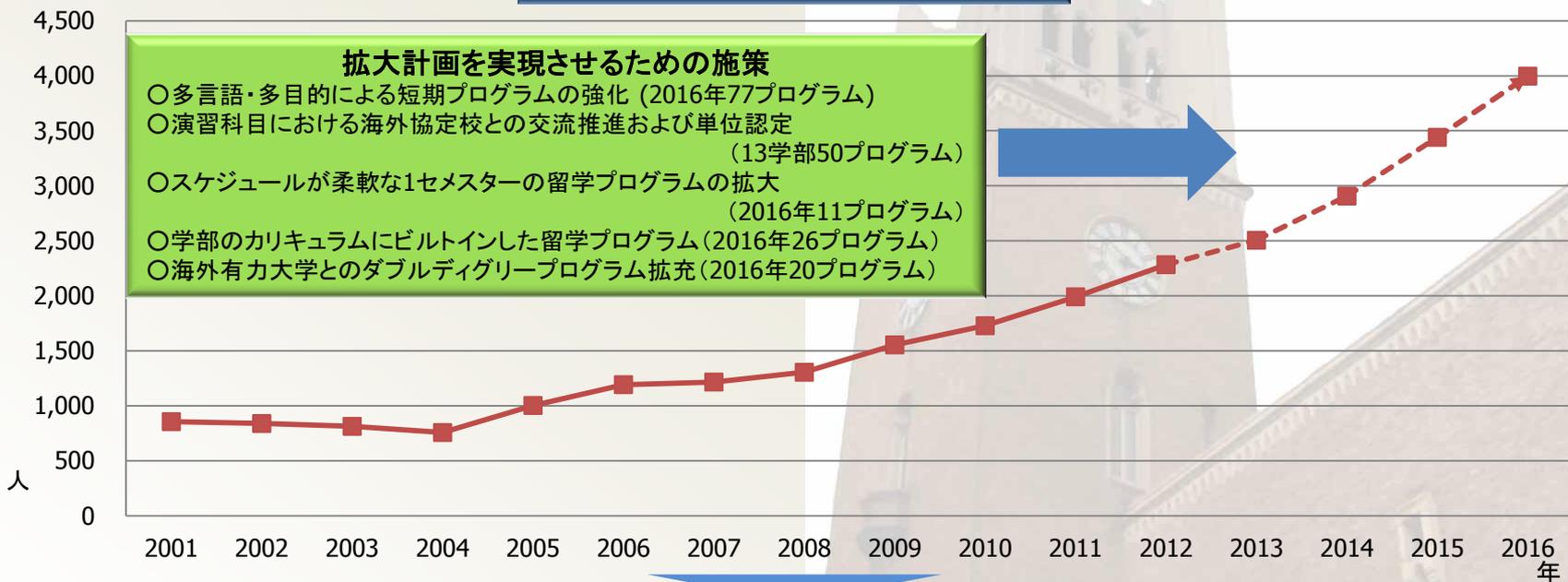
卒業時における『単位取得を伴う海外留学経験者数』

「学部生全員留学」に向けた取組み

2012年度 1,848名 長期留学者数:798名、短期留学者数:1,050名

2016年度 4,000名 長期留学者数:1,500名、短期留学者数:2,500名

早大生留学経験者数の推移



2022年度 8,000名 長期留学者数:2,000名、短期留学者数:6,000名



グローバル化を牽引する拠点としての役割と貢献

本学の3つの貢献

提供内容

- 協定開発およびプログラムマネージメントに関するノウハウ提供
 - 各種教育交流団体等での団体講義形式
 - 研修や訪問、電話による個別対応
- 各種海外業務危機対応 ノウハウ提供
 - 各種教育交流団体等での団体講義形式
 - 研修や訪問、電話による個別対応
 - 緊急時の各種支援

- 本学ファカルティ・ディベロップメント(FD)プログラムの外部開放
 - 本学で行うプログラムへの参加受入
 - 海外大学への派遣プログラムへの参加受入
- 海外・国内職員研修プログラムへの受入
 - 本学での関連業務実地研修受入
 - 海外スタッフ・ディベロップメント(SD)プログラムへの一部受入
- 留学プログラム余剰枠の供与
 - 本学が有する海外413機関との間で実施する長・短期プログラムの余剰分の外部開放

他大学への貢献

- 日本・地域の将来を担うグローバルリーダーの供給
- 日本社会のグローバル化への提言と推進

社会への貢献

本学推進体制

- 企業の国際競争力を高める人材の提供
- 産業界の求める人材の協同育成

産業界への貢献



学内推進体制と他大学との協力関係

構想実施委員会

成果・ノウハウ提供

アドバイザー
国内外
産業界
有識者

委員長 国際担当副総長
副委員長 教務部長
国際部長

13学部 学部長

- ・政治経済学部
- ・法学部
- ・教育学部
- ・商学部
- ・社会科学部
- ・人間科学部
- ・スポーツ科学部
- ・国際教養学部
- ・文学部
- ・文化構想学部
- ・基幹理工学部
- ・創造理工学部
- ・先進理工学部

教務部

- ・全学共通
教育センター
- ・入学センター
- ・FDセンター

国際部

- ・留学センター

学生部

- ・キャリア
センター
- ・ボランティア
センター
- ・国際コミュニ
ティセンター

第三者
評価
委員会

評価・改善

海外
協定校

共同教育
プログラムの
開発

グローバル人材育成普及企画会議

議長 教務部長
副議長 他大参加校関係者

参加候補大学

- ・国内協定大学
同志社大・九大・関西大
ほか21大学
- ・F-campus
立教大・学習院大・
日本女子大・
学習院女子大
- ・G5
国際教養大・ICU・
上智大・立命館APU
- ・USJI
東大・京大・慶大・
立命館大・筑波大・
九大・同志社大

*その他希望大学と
協定を締結予定

提案内容

- ・シンポジウム・
ワークショップの
企画運営
- ・プログラムノウハウ
提供内容検討
- ・海外/国内職員研修
プログラムの提供
- ・海外リスク
マネジメント
ノウハウの提供
- ・留学プログラム
余剰枠の提供

ニーズ



おわりに

社会が求めるグローバル人材の育成の鍵

グローバル人材の育成は、ひとり政府・行政関係者のみならず大学関係者・団体や企業関係者・経済団体等を主動的な起点とする一つの社会的な運動として、継続的な取り組みが必要。

(出展)グローバル人材育成推進会議

大学間や社会の連携体制が必須